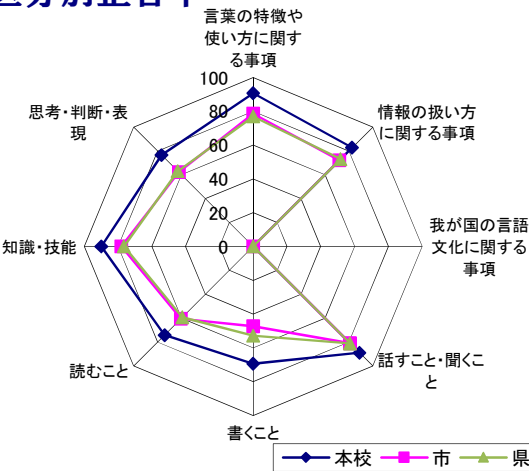


宇都宮市立今泉小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 90.7 | 78.6 | 76.9 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 82.8 | 72.2 | 73.1 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
|     | 話すこと・聞くこと        | 88.9 | 81.0 | 81.1 |
|     | 書くこと             | 69.4 | 47.2 | 52.8 |
|     | 読むこと             | 74.1 | 60.5 | 59.3 |
| 観点  | 知識・技能            | 89.9 | 78.0 | 76.5 |
|     | 思考・判断・表現         | 76.6 | 62.3 | 63.1 |



★指導の工夫と改善

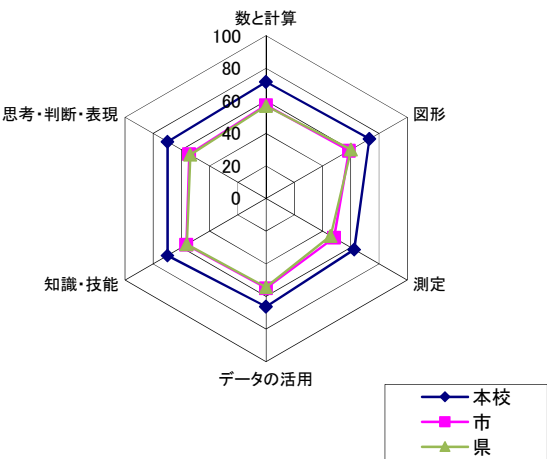
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                      |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 平均正答率は、市の平均を12.1ポイント、県の平均を13.8ポイント上回っている。<br>○第3学年に配当されている漢字を正しく読む問題は、平均正答率がすべて9割を超えている。正しく書く問題では熟語で解答する問題で県の平均正答率を39ポイント上回っており、漢字の意味を正しく理解している。<br>○指示語やローマ字の問題では平均正答率が9割を超えており、内容の定着が図られている。<br>●主語・述語の関係を問う問題は、県の平均を13.8ポイント上回っているものの、他の設問と比べ平均正答率が8割に達していないことから、十分に定着していないことが分かる。 | ・主語や述語について文の基本的な構成であることを踏まえ、主語と述語の関係を明確に理解したり文を書いたりできるよう、プリントなどを用いて課題に取り組ませる。<br>・既習漢字は今後も家庭学習等に継続して取り組み、日常での使用を意識付けるよう支援していく。                                                                |
| 情報の扱い方にに関する事項    | 平均正答率は、市の平均を10.6ポイント、県の平均を9.7ポイント上回っている。<br>○国語辞典の使い方は、市と県の平均正答率を上回っており、十分理解できている。                                                                                                                                                                                                    | ・国語辞典の使い方について、日常的に使用することを意識して継続的に指導していく。<br>・使いやすい環境にするよう、教室に国語辞典を置き、身近に調べられる環境作りを工夫する。                                                                                                       |
| 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は、市の平均を7.9ポイント、県の平均を7.8ポイント上回っている。<br>○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は9割を超えている。話し合いでの発言の工夫や、理由を挙げながら自分の考えを書く問題は正答率は9割に近く、県の平均正答率を上回っている。<br>●司会者の発言として適したものを選ぶ問題は、県の平均を12.6ポイント上回っているが、正答率が8割程度に留まっている。                                                                                 | ・大切なことを落とさず聞くために、話を聞く時のポイントや話し方について繰り返し指導していく。<br>・話し合いでは、司会としての役割を理解し学級活動で参加者の発言を基に考えをまとめたり、ペアやグループ学習で自分の考えや理由を伝えたりする機会を増やしていく。                                                              |
| 書くこと             | 平均正答率は、市の平均を22.2ポイント、県の平均を16.6ポイント上回っている。<br>○二つのポスターのどちらがよいか選り条件に合わせて考えを書く問題で、指定された文章の長さや、自分の考えを明確にする、理由や事例を挙げるなどの条件に合わせて書くことは県の平均を14ポイント程度上回っている。2段落構成で書くことについては県の平均を20.9ポイント上回っている。<br>●無回答率が13.1%で、自分の考えを条件に合わせて書くことが十分ではない。                                                      | ・学習の中で自分の考えを書く際、話し合う活動も取り入れ、書きたいことの見通しをもったり、根拠を示して分かりやすく書いたりすることを意識付けていく。<br>・他教科との関連を図りながら、個人やグループによる新聞づくりや学習のまとめづくりなどで、集めた様々な情報を比較分類して、目的や条件に合わせて文章を書く機会を増やし、文章の構成・段落に注意して文章を書けるような指導をしていく。 |
| 読むこと             | 平均正答率は、市の平均を13.6ポイント、県の平均を14.8ポイント上回っている。<br>○物語の登場人物の気持ちや説明文の内容を、叙述を基に捉える問題は、県の平均正答率を上回っている。<br>●文章の要約を読み、空欄に適する言葉を書き抜く問題については、県の平均を16.7ポイント上回っているが、無回答率が35.4%と高く、十分に理解しているとは言えない。                                                                                                   | ・好きなジャンルの本だけでなく、日頃から様々なジャンルの本に親しむことができるよう、声掛けをしていく。<br>・文章を読んで内容を要約したり、周りの意見を聞いて相手の伝えたいことをまとめたりする機会を増やし、情報と情報の関係について理解し、話の中心を捉えられるよう指導していく。                                                   |

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 71.6 | 57.4 | 56.9 |
|     | 図形       | 73.2 | 58.7 | 60.1 |
|     | 測定       | 62.4 | 48.1 | 45.7 |
|     | データの活用   | 66.3 | 54.9 | 54.3 |
| 観点  | 知識・技能    | 69.8 | 56.6 | 56.2 |
|     | 思考・判断・表現 | 69.8 | 54.5 | 53.8 |



★指導の工夫と改善

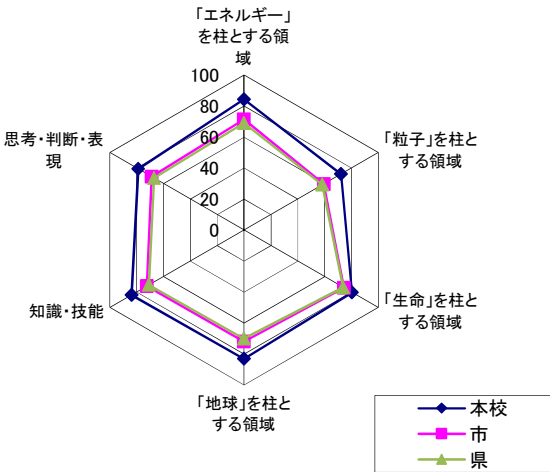
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                        | 今後の指導の重点                                                                                                                                                            |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は、市の平均を14.2ポイント、県の平均を14.7ポイント上回っている。<br>○2けた×1けた＝3けたの計算ができるかどうかをみる問題の正答率は95.0%で、市や県の平均を大きく上回っている。また、全問題の中でもっとも高い正答率だった。<br>●数直線で、目盛りが表す数の大きさについて理解し、分数で表すことができるかをみる問題は市や県の平均を上回っているものの、正答率が48.5%だった。分数の表し方について課題があると言える。 | ・基本的な四則計算については比較的高い正答率だったが、今後も朝の学習やAIDリルを活用して繰り返し学習することで、正確に計算する力を身に付けることができるようにする。<br>・分数や小数について、数直線やテープ図を使って表したり、言葉で説明したりする活動を意図的に取り入れ、仕組みや表し方についての理解が深まるようにしていく。 |
| 図形     | 平均正答率は、市の平均を14.5ポイント、県の平均を13.1ポイント上回っている。<br>○球の平面を切ったときの切り口の形を選んだり、箱の横の長さから球の半径を求めたりする問題の正答率は78.8%で、市や県の平均を上回っており、球について十分理解している。<br>●二等辺三角形になる点を選ぶ問題の正答率は49.5%でとても低い。二等辺三角形の性質の理解が十分とは言えない。                                  | ・学習した知識を活用して、作図の手順や図形の性質について説明する活動を積極的に設定し、より一層学習内容の定着が図れるようにする。<br>・身の回りの具体物の中から三角形や円、球など見いだす活動を設定し、それぞれの図形がもつ性質が日常生活の中でどのように役立てられている考えさせていく。                      |
| 測定     | 平均正答率は、市の平均を14.3ポイント、県の平均を16.7ポイント上回っている。<br>○時間が経過する前の時刻を求める問題の正答率は70.7%で、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。<br>●はかりの目盛りを読み取り重さを答える問題は、市や県より10ポイント以上上回っているものの、正答率は47.5%で低かった。                                                            | ・学習単位として扱いの少ないはかりは、理科の学習などでも実際にはかりを使う機会を意図的に設定し、理解が深められるようにする。                                                                                                      |
| データの活用 | 平均正答率は市の平均を11.4ポイント、県の平均を12ポイント上回っている。<br>○二次元の表から傾向を読み取ることができるかをみる問題の正答率は72.7%で、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。<br>●目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題は市や県の平均を上回っているものの、正答率は56.6%で、やや低かった。                                                   | ・算数だけでなく社会科や理科の学習でも、表やグラフなど資料の見方や活用の目的を指導し、定着を図っていく。<br>・資料から分かることや考えたことについて話し合う活動を通して、表やグラフで表すことのよさについて理解を深められるようにすると同時に、多角的・多面的に捉える力が身に付くように指導していく。               |
|        |                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                     |

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 84.3 | 71.4 | 69.1 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 72.2 | 59.3 | 58.3 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 80.4 | 74.5 | 73.8 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 83.1 | 72.0 | 70.1 |
| 観点  | 知識・技能          | 83.8 | 72.5 | 70.9 |
|     | 思考・判断・表現       | 78.9 | 68.8 | 67.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 今後の指導の改善                                                                                                                                      |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 平均正答率は、市の平均を12.9ポイント、県の平均を15.2ポイント上回っている。<br>○複数の鏡ではね返した日光を重ねて当てた場所のうち、同じ温度になる箇所を答える問題と、電気の通り道の名称を答える問題は、市や県の平均を20ポイント以上上回っている。<br>●風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることを答える問題は、市や県の平均を8ポイント以上上回っているが、無回答率が3%と他の問題に比べて高かった。<br>●輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ問題は、市や県の平均を3ポイント以上上回っているが、正答率が60.6%で他の問題に比べると誤答が目立った。                                | ・児童の誤答分析の結果、実験の結果を表す棒グラフとして正しいものを選択できなかった児童の多くは縦軸と横軸が逆になっているものを選択していた。今後は実験をグラフにまとめたり、グラフを読み取ったりする学習を繰り返すことで知識を深めていく。                         |
| 「粒子」を柱とする領域    | 平均正答率は、市の平均を12.9ポイント、県の平均を13.9ポイント上回っている。<br>○実験結果から推測して、重さを揃えた異なる材質のものの中で最も体積が大きいものを答える問題は、市の平均を13.8ポイント、県の平均を15.9ポイント上回っている。<br>●粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ問題は、市や県の平均を17ポイント以上上回っているが、正答率が44.4%で他の問題と比べると誤答が目立った。                                                                                                                  | ・児童の誤答分析の結果、問題の予想に沿う結果を選ばずに正しい結果を選ぶ児童が多かった。今後は問題文を注意深く読むように指導し、質問に合う答えを取捨選択する力を身に付けさせる。                                                       |
| 「生命」を柱とする領域    | 平均正答率は、市の平均を5.9ポイント、県の平均を6.6ポイント上回っている。<br>○モンシロチョウとの比較を基に、クモが昆虫といえるかを述べた文章として正しいものを選ぶ問題は、市の平均を12.8ポイント、県の平均を15.1ポイント上回っている。<br>●モンシロチョウとトンボの育ち方を比較して差異を答える問題は、市や県の平均を6ポイント以上上回っているが、正答率が49.5%で他の問題に比べると誤答が目立った。<br>●モンシロチョウのたまごと幼虫について適切に説明した文章を選ぶ問題は88.9%と高い正答率だったが、市の平均を2.3ポイント、県の平均を0.5ポイント下回っている。この問題は全領域の中で唯一、市や県の平均を下回っている問題だった。 | ・モンシロチョウの体のつくりや育ち方については、他の昆虫との差異を判別する活動を行うなど、身に付けた知識を活用する場面を取り入れる等、指導を工夫する。                                                                   |
| 「地球」を柱とする領域    | 平均正答率は、市の平均を11.1ポイント、県の平均を13ポイント上回っている。<br>○方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題は、市の平均を17.1ポイント、県の平均を19.1ポイント上回っている。<br>●午前と午後、日なたと日陰で地面の温度を調べた結果を適切にまとめた記録を選ぶ問題は、市や県の平均を6ポイント以上上回っているが、正答率が65.7%で他の問題に比べると誤答が目立った。                                                                                                                                         | ・児童の誤答分析の結果、午前と午後、日なたと日陰で地面の温度を調べた結果を適切にまとめた記録を選ぶ問題では、日なたと日陰の温度の違いのみが書かれた結果を選択している児童が多かった。実験の結果を表や言葉でまとめることを繰り返し行い、実験の内容と結果を結び付けていくよう指導を工夫する。 |

## 宇都宮市立今泉小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」に対する肯定的回答の割合は87.3%、また、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」に対する肯定的回答の割合は82.5%で、県の平均を上回っていた。今後も児童の疑問を生かし、授業の内容を深めたり、自主学習につなげたりし、よりよい学びへ発展できるようにしたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」に対する肯定的回答の割合が57.2%で、県の平均を7.7ポイント下回っていた。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に対する肯定的回答の割合は56.4%で、県の平均を6.4ポイント下回っていた。これらの結果から、家庭での自主的な学習習慣があまり確立されていないことが伺える。「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」に対する肯定的な回答が県の平均を上回っている点を家庭学習にも生かすことができるよう、授業の内容を深めたり、どのように自主学習すればよいかの例を示したりするなど積極的に働き掛けたい。